T2R2 東京工業大学リサーチリポジトリ
Tokyo Tech Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	国際参加型民主主義観測所OIDPの取り組みからみる市民参加に関する都市間交流と民主主義への試み
Title(English)	
著者(和文)	吉田祐記
Author(English)	Yuki Yoshida
出典(和文)	学位:博士（工学）, 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9893号, 授与年月日:2015年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:土肥　真人,中井　検裕,真野　洋介,斎藤　潮,十代田　朗,崎山　正毅
Citation(English)	Degree:, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9893号, Conferred date:2015/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	要約
Type(English)	Outline

Powered by T2R2 (Tokyo Institute Research Repository)

学位論文の概要

論文題目「国際参加型民主主義観測所 OIDP の取り組みからみる市民参加に関する都市間交流と民主主義への試み」

本研究は、「国際参加型民主主義観測所 OIDP（スペイン語名 El Observatorio Internacional de la Democracia Participativa 以下、OIDP　英語名 The International Observatory on Participatory Democracy）の取り組みからみる市民参加に関する都市間交流と民主主義への試み」と題し、全 7 章から構成されている。

第 1 章「研究の概要」では、本研究の背景、目的、対象、方法、構成、を提示している。本研究では、ラテンアメリカ、ヨーロッパにおける「都市の民主主義」の実現を目指す都市間ネットワークである OIDP の取り組みに着目している。2001 年から現在まで実施される国際会議や市民参加表彰活動に登録された 152 事例の市民参加プログラムの分析を通じて、OIDP ネットワークの特徴と、個別の都市の民主主義の改良との相互作用を明らかにするとしている。

第 2 章「OIDP の設立と組織、活動実態」では、OIDP の設立過程を、軍事政権後のポルト・アレグレ、第二次大戦後のサン・ドニ、独裁政権後のバルセロナといった 3 都市の歴史と全体主義との対比から概観している。OIDP は設立以来、バルセロナを技術事務局として、2014 年現在、71 カ国 615 都市から成り、毎年ラテンアメリカ・ヨーロッパの都市で交互に国際会議を実施し、開催都市は OIDP ネットワーク代表都市として国際会議の運営、年次目標の設定、市民参加プログラムの表彰・報告会を実施している。また OIDP では、「参加型民主主義」を厳密に定義せず、その目的や組織運営、活動内容を各メンバー都市の意思決定や行動に委ねているとし、都市の多様性と民主主義を尊重する OIDP の特徴を明らかにしている。

第 3 章「OIDP に蓄積される市民参加プログラムの特徴的要素」では、2006-2012 年の市民参加表彰活動にノミネートされた 152 の市民参加プログラムの事例に着目し、その申請書から把握した各プログラムの要素を基に GIS データベースを作成し統計的、地理的に分析している。その結果、13 指標 109 項目から成る要素から、行政組織とそれ以外の主体(市民組織や学術機関、他 9 種）の推進主体の組み合わせと、ラテンアメリカ、ヨーロッパの 2 地域から大別される、ラテンアメリカ型の動態的な主体による手法の移転、ヨーロッパ型の自治体を中心とした市民参加の手法の普及という全体的な傾向を把握するに至っている。

第 4 章「OIDP の市民参加表彰活動にみる都市間交流」では、前章と同一の 152 事例の市民参加プログラムを対象に、各申請書の記述から、都市名、国際機関、学術機関、ネットワーク、参加の手法、法制度といった固有名称を抽出し、他の事例におけるそれと照合し、対応する事例間の具体的な出来事や活動を把握し、次の 6 つの都市間交流を明らかにしている。市民参加の手法に関わる交流として、予算運営の市民参加モデルである参加型予算

を介した交流（交流 1-3)、共同プロジェクトを介した都市間の交流（交流 4)、また隣接するバルセロナ周辺の自治体による都市間交流（交流 5)、バリオ、ファベーラといった地区改良に関わる交流（交流 6）である。また各交流に関わる市民参加プログラムの特徴を示すと共に、交流を地理的かつ時系列で把握し交流に関わるラテンアメリカ、ヨーロッパ相互で活動する、大学や国際機関等の主体も明らかにしている。

第 5 章「市民参加プログラムを介した都市間交流と民主主義への意識」では、前章と同一の 152 事例の申請者を対象としたアンケート調査及び現地調査により、市民参加の手法の改良とそれを介した都市間交流の実態と意識、また「都市の民主主義」に関する意識について、3，4 章で得られた結果と共に分析をしている。その結果、交流 5 に示したバルセロナの周辺自治体では、バルセロナ県やカタルーニャ自治州との市民参加プログラムを介した交流を確認できるが、一方で国内の法制度や経済状況、上位政策主体の変化に左右され得るということを明らかにしている。また交流 6 に対応するメキシコ・シティの地区改良プログラムの交流は、都市内の市民組織や専門家と共同した国外の都市との都市交流であり、自国政府への不信に起因する市民参加プログラムの改良に向けた交流であることを明らかにしている。一方で、交流 1 と対応するコルドバでは、長きに渡る独裁体制や軍事政府によって阻まれてきたコルドバの「都市の民主主義」の価値をゆるぎのないものとする、という行政側からの働きかけを明らかにしている。

第 6 章「バルセロナ、メキシコ・シティにおける都市の民主主義」では、市民参加プログラムの改良や都市間交流（交流 5、6）の中心となるメキシコ・シティとバルセロナ 2 都市を対象として、近代国家成立以後の都市の変遷における市民組織、都市間交流の取り組みを分析している。バルセロナ市では、独裁体制下におけるカタルーニャ語をはじめとする文化的な抑圧、メキシコ・シティにおいては居住地からの強制退去といった、文化や土地とその上に成り立つ市民の運動の歴史や国連、EU といった国際機関からの支援の歴史を述べている。さらにバルセロナでは民主化以後に欧州委員会との協力のもと進められていた自治州の設置をはじめとする地方分権化の推進の中で OIDP が設立されたと述べている。またメキシコ・シティでの地区改良プログラムの継続を保障する法整備や財源の確保の試みは、OIDP への参加をきっかけとして開始されたことを明らかにしている。

第 7 章「総合考察」では、各章で得られた成果をまとめ、結論を述べている。

以上本研究は、ラテンアメリカ、ヨーロッパの都市間で形成される「都市の民主主義」を目指す OIDP ネットワークの取り組みから、個々の市民参加の手法の特徴とそれを介した都市間交流を明らかにし、個別の都市で形成される市民の文化や土地に結びつく「都市の民主主義」の実現に向けた独自の都市交流と手法の相互改良を論じたものである。